

FUNCTION

ファンクション
ウェブマガジン

PEOPLE & CULTURE MAGAZINE

2013.October Vol.001

創刊号
Vol.001

僕らが集まる、 その理由

イベント・クリエイター いわいゆうき

顔本 KAO-BON

俳優 柴野弘志

[Recommend] Fun running

[Guest column] 矢守忠彦

〈PR〉



海外のタレント、モデル、お探しですか？

男性、女性、子供、ナレーターまで、もちろん、国内タレント、モデルもご紹介します。

ECHONES

<http://www.echoes-tokyo.com>

〈PR〉

Web 制作向け**無料**写真素材!ぱくたそ



PAKUTASO

www.pakutaso.com





[Special Future]

僕らが集まる、その理由。

誰もが居られる居場所を目指して

イベント・クリエイター

いわいゆうき



[Recommend] Fun running

風まかせランのススメ。

SMOKE & RUN

風まかせランナー 本間貴志



[Interview]

顔本

f KAO-BON

俳優

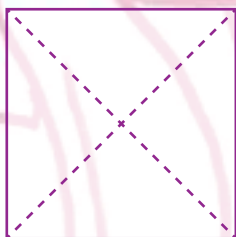
柴野弘志

Facebookは、米国フェイスブック株式会社が
提供するソーシャル・ネットワーキング・サービスです。

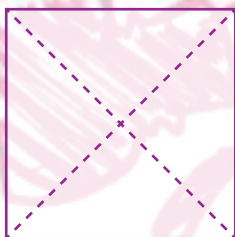
[Guest Column]



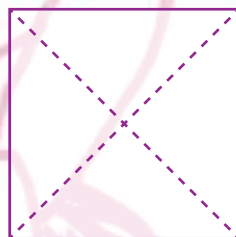
矢守忠彦



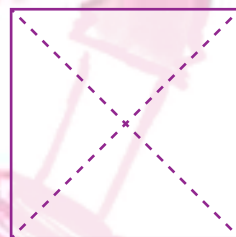
COMING SOON!



COMING SOON!



COMING SOON!



COMING SOON!



[Editor's Note]

From
BACKYARD

僕らが集まる、 その理由。

誰もが居られる場所を目指して

イベント・クリエイター いわいゆうき

取材、文 矢守忠彦 撮影 久保大吾

東京、下北沢。駅からほど近いカフェZAC。
そんな古き良き雰囲気のカフェに“いわいゆうき”は姿を表した。

彼は下北沢を中心にイベント・クリエイターとして活動している。最初に企画したイベント。それが「無職FES」だ。もともと、役者を目指していたが、自身の体験を元に、改めて、働くこと、生きることを考えるようになった。そこに興味を持ち協力してくれる人が集まり、現在彼の考える様々な企画には、約10,000人という規模で人が反応してくれる。そういう、一人ひとりが集まって大きなムーブメントが生まれるのだ。

現在、「集まる」という行動の先には、ビジネス的な利益目的が真っ先についてまわる。しかし、彼の行動にはそれがない。だからと言ってボランティアでもない。下北沢で、新しいカルチャーとして注目される彼の活動の一部を通して、「集まる」という行動の利益目的“以外”での大事な側面が見えてきた。

矢守(以下、矢:)「無職FES」について、これは無職について考えるイベントですか？

いわい(以下、い:) 無職についてというよりも“働く”ということについて考えてもらうイベントです。「無職」という言葉がネガティブなイメージで、僕も失業した時に「自分は社会の何の役にも立たないんじゃないか」って、とても否定的に考えてしまい、落ち込んだりしていたんです。その時に、少しでも前向きにとらえることはできないだろうかと考えて企画したのがこのイベント「無職FES」でした。

結局、「無職」っていう言葉は、ネガティブなイメージに変わりはありませんでしたが、今現在、働いている人たちにも“働く”ことについて考えるキッカケにはなりました。僕自身も“働く”ってことに改めて向き合う良い機会になってますね。

僕らが集まる、その理由。

矢：一般的に「働く」「就職」というテーマを掲げる時は、セミナーのようなスタイルをとることが多いですね。なぜ「FES」という形を選んだのですか？

い：単純に「楽しんでほしい」から。ただでさえ扱っているテーマがナイーブなので、うまく言えないんですが「面白いことが最強の正義」みたいなところがあって、「まじめに硬く」というよりも「楽しく、明るく」やりたかったのはありますね。

あとそうだ、ハローワークに通っていた時期があって、そこには失業者相談セミナーなどのチラシが沢山置いてあったんですけど、何かそのものがカモシ出す“辛気臭さ”みたいなものが嫌だったのもありますね。あのセミナーの雰囲気に入っていくのはすごくハードルが高く感じられて…。

開店したら行って、眠くなるまでいて、家に帰って寝て。起きたら又BARに。リアルに毎日、本当にその繰り返しでした(笑)。

常連のお客さんや、友達(店長)も心配して、「いらいさん、そろそろ何かやったら？」って。もともとそのBARで誕生日会や、劇を上演してたので、その時に「無職FES」の話をしたら、「それ面白いじゃん。うちの店、使っていいから」って言ってくれたのが始まりですね。

だから、社会的な意義とかは正直、後付けだったりします(笑)。

他の社会問題も全て何らかの形で繋がっていて、決して他人事じゃないなって。それで、ユニークなイベントが次々と生まれました。

矢：その友達(店長)が背中を押してくれたんですね。

リアルに毎日、
友達のやっているBARに
入り浸ってました(笑)。



もちろん「無職FES」でも座談会になる時に深い話が出てくることはあるけれど、まずは気楽に楽しめたり、時には深刻な話も打ち明けられる。その両方ができるところがいいと思っています。

「無職FES」はネットの視聴者を数えて約6,000人(実視聴者数ではない)を超える。「自分たちもやりたい」と大阪や札幌でも開催された。又、同FESの意義は、就労者支援ではなく“働く”“働かない”の考え方は本人の自由意思だ。何よりも“働く”ということ、ひいては“より良い生き方”について考えてもらうのが大事だという。

い：「無職FES」を始めたのは会社をリストラされた時期で、毎日、友達が店長をやっているBARに入り浸ってました。

1人で家にいるのが凄く怖くて。

い：ハイ。それと、リストラされた時のストレスを何かの形で発散させてやろうと思ったんです(笑)。

矢：まさかのストレス発散w(笑)。

い：(笑)まあ、そうですね。でも、だからこそ、1人じゃ何も出来なかった。就職前の5年間は演劇をやっていて「こんな舞台をやりたい」と言っても、一緒にやってくれる人が全然なくて…(苦笑)。でも、「無職FES」を企画した時は、すぐに反応があって。1人じゃなかったんですよ。それが大きいかな。

で、ちょっと前に改めて劇団作りしました(笑)。幽霊部員を含め150人超えてる中、週1回の稽古に30人位の人が集まってくると、昔、これぐらい集まってくれたらなあって(笑)。

僕らが集まる、その理由。

いわいは今、イベントの他に「劇団ほぼ無職」という劇団を旗揚げし、下北沢を中心に演劇活動をしている。「仕事は?」と聞かれて「無職です。」と答えるより「劇団員です。」と答えるほうがほんの少しマシ。が、コンセプトで誰でも劇団員になれる画期的な場所だ。初公演を北沢タウンホール(下北沢)で上演。たった1回の公演ながら、200人以上を動員。ほとんど未経験者で作りあげた舞台は、物議をかもしたが、演劇界に一石を投じた。

い: 1人ってキツイんですね。

1人では解決しない問題も、誰かと話していると、そこから解決することよくありますし。

週1回の稽古終わりに、みんなでご飯を食べに行くんですけど、「週に1度でも誰かとご飯が食べれるのがうれしい。」っていう人もいて、なんか「1人じゃない」って感じが大事なんだろうね。

矢: 今の生活は充実してますか?

い: …うーん。金銭的にはハッキリ言って、キツイです。今も週3でバイトはしてますし、給料日の1週間前にはレッドゾーンに入って(笑)、給料が入る度によく乗り越えたなあって実感しますね(笑)。

それでも、面白くて意義のあるイベントにしたいので、目先の収益に惑わされないように気をつけてます。

矢: 以前「口論で、ケンカした」とあったんですが、本当に怒ったんですか?それとも意図的?

い: わざとじゃないです(笑)。その時はこちらの意図がまったく通じなくて、「もういいです!!黙ってください!!」みたいになりましたが…駄目ですね、やっぱり。話合いの席で怒っちゃ。それで、注目されて新しく知合った人もいて、それはそれでありがたいんですけどね。



矢: 今も批判的な意見や、解ってもらえない事ってありますか?

い: ありますね。「ホームレスBAR」を企画した時に、ホームレスを支援してる人から「見せ物になったり、プレッシャーを与えてしまうのでは?」という意見がありました…。そういう時は、「そうですね。なるほど、ありがとうございます。」って。

矢: (笑) 大事だ(1度受け入れる)

い: こっちも儲かっているわけでもないのに…って思う事もあるけど。でも、その彼が支援をしているメインの人だったりして。敵じゃない。敵じゃなくて、むしろ、こちら側の人。で、僕はそういった人たちの“外側”に位置するわけです。“外側”にいるからこそ、興味のない人にも考えるキッカケにしてもらいたいの、協力しないといけない。だから受け入れています。



僕らが集まる、その理由。

世界をちょっとだけ変えた
という手触りが、
あなたの世界をちょっとだけ
変えるんだと思う。



矢：最後に、大事にしてることは？

い：えーと、そうですね。…夢。

いや、そうじゃなくて、なんと言うか、心がワクワクすることですかね。
「大きな何か」によって夢もあるにはあると思うんですけど、明確に決
まってなかったり、ましてや、わざわざ絶対に持たないとダメというもの
じゃないので。

今、日本に元気がない、夢がないと言われるけど「明日、早く起きよ
う。」とか「早く起きてこれしよう。」とか、実は、そういう気持ちのほうが
大切なんじゃないかと。これは若い人に対してじゃなく、大人が毎日
「楽しくてしかたがない」みたいな気持ちを持つのが大事なんじゃない
かと思いますね。

現在、行き詰ったり、悩むようなことはある。ましてや、仕事を定年にな
るまで“確実に”“保証されている”人なんて珍しいくらいだ。

いわいは将来の目標を「株式会社ほぼ無職」としている。正社員にな
りたくても、なれない人が誰でも就職できる会社を設立したいと思っ

てのこと。もちろん、これには色々な壁が待ち受けているが、賛同する
人がまた集まって、その壁を乗り越えていくのだと思う。

いわいゆうきはこう言っている。

「世界をちょっとだけ変えたという手触りが、あなたの世界をちょっとだ
け変えるんだと思う。」

気楽に集まり、ふと、生き方について向き合う。例え、すぐに解決でき
ない問題も誰かといっただけでほぐれる気持ちがある。そこには、ウェブ
やメールでは伝えることのできない“何か”が存在する。そんな、居場
所が僕らにはあるだろうか？



いわいゆうき

1981年10月26日、滋賀県生まれ。

大学卒業後、就職先からリストラされ、2010年末頃
よりイベントの企画・運営を開始。2011年2月「無
職FES」を開催。後、「ホームレスBAR」、「みえない
BAR」など次々とユニークなイベントを開催してい
る。2012年3月「劇団ほぼ無職」を旗揚げ。団員数
150以上のマンモス劇団となる。下北沢の「カレー
フェスティバル」総合プロデューサーとしても活躍。

風まかせランのススメ。

SMOKE & RUN

取材、文 本間貴志(風まかせランナー)



とにかく現在“ランニングバブル”なのである。

山道を駆け回るトレイル・ランニングの大ブーム、抽選倍率が上がる一方の東京マラソン、皇居のまわりは美女ジョガーのたまり場と化している…。それでも、ランニングなんか全然する気になれんし、むしろ敵意さえ抱くわ。という人にどうしても知ってほしいことがある。このランニングバブルの裏側で、「ゆるラン派」という勢力が少数だがしっかり存在するという事実を。

字面を見れば大体、想像つくと思うけど、がんばって走るのは禁物。息がきれない程度で走り、ちょっと疲れたらその場にへたりこんでひと休み。走っていてしんどくなったら、タクシーや電車で帰っちゃう。なかにはゆるラン後に合コンをしちゃうよ。という企画を立てる輩もいたりする。つまり、ランニング=禁欲的というのは明らかな間違いなのだ。

最近、このゆるランをさらに進化させて、「風まかせラン」というのを発明した。これは、適当に電車に乗って、適当な駅で降りて、適当な方向に走るという企画である。競馬場にぶつかれば馬券を買い、たこ焼き屋にぶつかればたこ焼きを買う。

すべてなりゆき。ゆるランの極地、最高峰の企画といっている。

こんな風に、僕は筋金入りのゆるラン派で、おまけに重度の「ヘビース

モーカー」だ。ランニング途中に疲れてくるとニコチンを注入せずにはいられない。煙草を深く吸い、復活してまた軽快に走りはじめる。

フルマラソンの会場の喫煙所は意外と賑わっていて、その脇を禁欲的なランナーが苦々しい顔つきで通り過ぎる。喫煙ランナーたちは、「くそつたれが。肺がピンクの奴らに負けるか」と小さな声で呟く。そんな小さな闘いもあったりする。

自分の成績を見ると、年々タイムは上がっている。この事実をみると、煙草が呼吸気管系に悪影響を及ぼすというのは、嘘じゃないかと思いはじめている。

本間貴志

1974年5月7日、秋田県生まれ。

高校卒業後、経営雑誌のライターを経験する。以降、デザイン会社・企画会社・広告代理店など数社をコピーライターとして10年間渡り歩き、現在アスラン編集スタジオに入社。コンテンツ・ディレクターとして、主にビジネス書を中心とした様々な書籍制作に関わっている。

 www.facebook.com/writer.honma

顔本

f KAO-BON

Facebookは、米国フェイスブック株式会社が提供する
ソーシャル・ネットワーキング・サービスです。

Vol.01

俳優 **柴野弘志**

HIROSHI SHIBANO

取材、文 矢守忠彦

——「ハイテンション」にさせるものは何ですか？

うーん、そうですね。夏ですかね。一言で言っちゃえば、今年は海にも行けましたし、本当はダイビングもやりたいんですけど…最近はずれてないですねえ。海が好きっていうより、「夏が好き」なんですよね。海に行かなくて、都内で「暑っちな」って言うって、なんだかんだで楽しいですね。

夏以外のことなら、カラオケですかね(笑)。出来れば、お酒を飲まない状態で(まじめに)歌いたい。最近はしっとりとした曲をしっとりと歌ってます。あんまり自分からは(カラオケに)誘ったりしないんです。「どう？」って誘われて「…じゃあ。」って行くタイプです。まわりから見るとツンデレな態度をとってるらしいですけど(笑)。

スタートが(テンション)高くてそこから落ち着いていくのがパターンですね。

「夏」に「海辺」で「カラオケ」したら、どうなっちゃうんだろ(笑)？

誰かカラオケ誘ってくれないですかね？今から行きます(笑)？

あっ。誘ってますね。自分から。

——「コンプレックス」ってありますか？

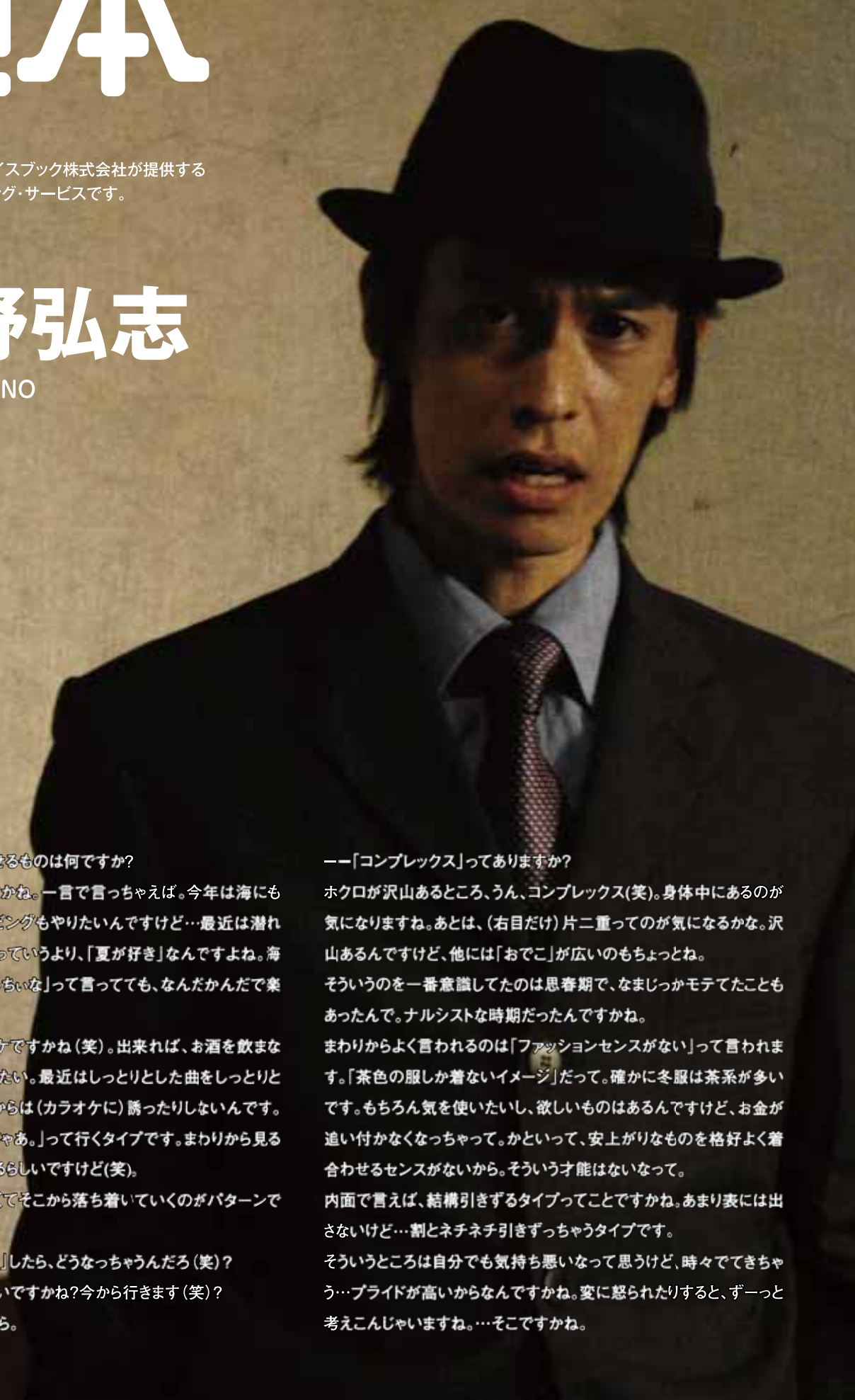
ホクロが沢山あるところ、うん、コンプレックス(笑)。身体中にあるのが気になりますね。あとは、(右目だけ)片二重ってのが気になるかな。沢山あるんですけど、他には「おでこ」が広いのもちょっとね。

そういうのを一番意識してたのは思春期で、なまじっかモテてたこともあったんで。ナルシストな時期だったんですね。

まわりからよく言われるのは「ファッションセンスがない」って言われます。「茶色の服しか着ないイメージ」だって。確かに冬服は茶系が多いです。もちろん気を使いたいし、欲しいものはあるんですけど、お金が追いつかなくなっちゃって。かといって、安上がりなものを格好よく着合わせるセンスがないから。そういう才能はないなって。

内面で言えば、結構引きずるタイプってことですかね。あまり表には出さないけど…割とネチネチ引きずっちゃうタイプです。

そういうところは自分でも気持ち悪いなって思うけど、時々でできちゃう…ブライドが高いからなんですかね。変に怒られたりすると、ずーっと考えこんじゃいますね。…そこですかね。



俳優 **柴野弘志** HIROSHI SHIBANO

——今の職業以外でやってみたい職業は？

あんまり考えたことないですね。

もともと、何かをやりたいというのがあんまりなくて…。

小学校の文集を読み返す事があって、将来の夢に「お金持ちになりたい」って書いてありましたから(笑)。

職業云々っていうじゃないんだって。だから、自分がやりたい「書き」としての「仕事」ってのは無いのかもしれない。フリーターなら、フリーターでもよかったりね。もちろん、ずっとフラフラと生きていくのは出来ないんじゃないかな。

自分に、しっかりとした「目標」があるならそれでいいなって。

「大物」にとか、「有名」にとか、ならなきゃいけないっていう不安感はずっとなくて。そこは、自分の中での気持ちが「成立」していれば、まわりからなんと言われようと構わないんじゃないかと思っています。…うーん、それでも、強いて言えっていうならば、海関係の仕事がいいですね。うん、民宿もいいですね。民宿、民宿経営やってみたいかな。

——カッコイイなって思う生き方はどんなものですか？

まわりを意識しない生き方。自分のスタンスを貫くというか。

あまり、計算高い人より、無骨で不器用な人のほうがいいです。

目標としている人はいません。

「いない」というと語弊がある言い方かな。ちゃんと言うと、目標の人はあまり設定したくなくて、この人になりたいというのはないってことかな。あれ？自分が一番ってことなのかな(笑)。

ただ、尊敬できる人はいます。

養成所でお世話になった加藤健一(カトケン)さんです。芝居を始めたばかりの頃は、テレビとかに出て、売れることを目指してたんですけど、カトケンさんみたいに自分のやりたい作品を選んで、好きな人をキャスティングして、いい舞台を作って、観客に提供して、ちゃんと成立させている。…それってスゴいなあと。

普通は、兼ね合いだったり、クライアントの意向を加味しながらオーダーに答えるから、自分の意にそぐわない事も呑み込まなきゃならないじゃないですか。だから、しがらみなく好き勝手に自己表現をしている生き方は素敵でカッコイイと思いますね。

彼は固執しない。

無論、芝居での彼は、役の見せ方や、効果的な表現については追求する。しかし、他人にあれこれ思われたらどうしよう？と表現を目先でいじったり、加減することはない。

実直にまっすぐ。だから、とても「ストイック」という言葉が似合う。

今回は彼のネットワークからゲストをご紹介します。対談もしてもらいます。

「六次の隔(へだ)たり。」いつかあなたをゲストに迎えます。



演劇バカー代



演 劇は、斜陽だ。いや日没と言ってもいい。活字→演劇→映画→テレビ→ネットと時代が変わり、得られる情報がより多く、安く手軽に、そしてスピードの早いものが好まれてきた結果だろう。それでも尚、演劇にできる事は多い。演劇の寛容さは凄まじい。人と人の感性を共有する「生」の瞬間芸術。…と言ってみたが、そんな素晴らしい事を見事に伝えるつもりはサラサラない。

今回は「恋人がほしいなら、芝居することがオススメ」ってこと。

「もうね。大学卒業すると、出会いが無いんですよ。」とよく聞く。

あまりピンと来ない言葉だ。

「なぜかって?」

僕の周りには、ずっと色々な女性がいたからだ。別に付き合ってた訳じゃあないけど、女性は“そこに”いたのだ。芝居をやっていると、舞台に出演するたびに共演者が変わる。どんどん新しく会おうのだ。

芝居作りにはコミュニケーションが必要だから、自己紹介が必ずある。連絡先も交換する。

タレントさんの場合、マネージャーが窓口ってのもあるけど。

基本は大体教えてもらえるのだ。

合コンと違って「今日はハズレ」と帰られることも基本ない。

長い稽古では三ヶ月、週に3回、3時間は会うことになる。逆に言うとうまいかなくても、三ヶ月後には「さよなら」することになる。

時間の共有スパンが学校とも合コンともチャットとも全然違うのだ。そして、何より共演者同士でくっつくことは、事実よくある話だ。

芝居は演技する(嘘をつく)のと同時に、自分の深いところをさらす面もある。それがあつた種の“勘違い”を生む。そんなこんなで、まさか付き合えるとは!?なんてことが起きてくる。それはしばしば、芝居マジックと呼ばれたりする。

演技なんて出来ない!!という人は、ワークショップ(勉強会)に来るといい。そこにも当然出会いはある。

不純な動機だ!という人もいるかもしれない。でも、役者だってバンドだってカッコいいと憧れる。中にはモテたいというキッカケで始めて、世界を感動させるものを産み出している人もいる。ほんとだよ。

でも、芝居マジックで付き合おうと、“魔法”が解けて別れるってことが、まあ多い。でも、次の出会いがすぐにあるハズ。ほんとだよ。

矢守忠彦

俳優、プロデュースユニット・モリンチュ代表

1981年6月30日、滋賀県生まれ。

高校より演劇をはじめ、脚本、演出を手がける。大阪芸術大学演劇専攻を卒業後、数々の劇団で客演を経験する。2013年より自身のプロデュースユニット「モリンチュ」を設立。演劇を中心とした様々なジャンルを幅広くカバーし、役者のみならず脚本や原稿の執筆としても活躍している。

f www.facebook.com/tadahiko.yamori

Editor's note

From BACKYARD

取材、文 矢守忠彦／撮影 久保大吾／企画 不破大志



「Flashを使ったウェブマガジンを作りたい。」そう言ってから、だいぶ時間がたってしまったが、無職フェスの「いわい君」を制作の二人が別々に注目したことで、創刊が実現しました。特に矢守君が“知り合い”だったことに驚いたな。

いわい君のすごいところは、まず行動したことでした。人は企画の段階で、採算や色々な影響を考えてから動くけど、彼は、「1人じゃない」をテーマにシンプルに考え、ためらわず多くの人の力を借りて巻き込んでいく。それが実現力に繋がっているんだと思いました。「僕はこれができます。」「これはできないのでお願いします。」「みたいにね。

“顔本”はそのまんま、Facebookを繋がり人に人を紹介していく。今回の柴野君は実に色男でした。それが、ゲストグラビアにもよく映えて、生き様が浮き出てきました。

「僕の隣にはこんな面白い人いる」がこのマガジンの裏テーマ。表現者が集まる“たまり場”的な存在でありたい。これから、人とあなたとまだ知らないモノを繋げていきます。



究極の唐揚げ専門店

Taste of Ultimate!



<http://karaagemiyako.com>

Support Staff

企画・構成 河住祐二（株式会社トランスクリプション）／ 編集 本間貴志（株式会社アスラン編集スタジオ）
ウェブ・コーディネート 前島智恵（株式会社トランスクリプション）／ 企画・取材 矢守忠彦（モリンチュ）
写真撮影 久保大吾／ 企画 不破 大志／ INDEXイラスト 都築知沙

Special Thanks

I LOVE 下北沢／ カフェZAC／ ステージカフェ下北沢亭／ 星降る食卓／ 株式会社トランスクリプション／ モリンチュ
株式会社エコーズ／ PAKUTASO／ 京-みやこ-(18Production)／ いわいゆうき／ 柴野弘志